

2024 年 6 月 5 日

通貨ニュース

メキシコ: ボラティリティ上昇がキャリートレードの巻き戻しを誘発

昨日の本欄(*)では、3 日の MXN 急落の背景である、メキシコ議会選挙の動向について論じた。かかる中、翌 4 日に関しても、MXN の軟調推移が続いた。NY 時間には米金利低下もあり下落は止まったものの、引け値を確認しても、対ドルでは前日比▲0.97%下落した(図表 1)。月初の 2 日間で実に▲4.75%の下落となっており、言うまでもなく主要新興国通貨でワーストパフォーマンスとなっている。3 日と違い、メキシコの選挙に関し目立った材料や報道があったわけではないが、MXN 売りの流れは止まることがなかった。

4 日の MXN 安に関しては、ボラティリティ上昇に伴うキャリートレードの巻き戻し、が主な要因になったと筆者は考えている。オプション市場に目を移すと、USD/MXN の 1 か月物のインプライドボラティリティは欧州時間入り後に急上昇し、2023 年 10 月以来の高水準を付けた(図表 2)。MXN はキャリー目的で買い建てられる傾向が強いことは周知の通りではあるが、所謂「キャリートレード」の天敵は何よりもボラティリティの高まりである。3 日から 4 日にかけて、投機筋や個人投資家による MXN のロングポジションの手じまいが発生した、と考えるのが妥当だろう。3 日のドル/円相場下落に関しても、MXN の急落が絡んでいる、との分析を披露する向きもある。

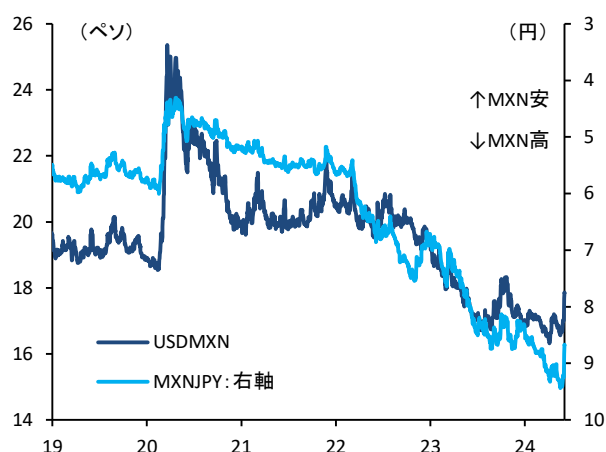
MXN の先行きに関しては、特に短期的には投機筋の動きや選挙関連のヘッドラインに左右され、ボラタイルな展開が想定されるだろう。4 日夜には、アンドレス・マヌエル・ロペス・オブラドール現大統領(以下、アムロ)が、医療制度を強化する計画を公表している。シェインバウム氏は、アムロ体制を基本的には引き継ぐ意向を示しているが、既にラミレス財務相に留任要請を行っており、同氏もそれを受け入れている。財政への配慮は、シェインバウム氏のほうがあると考えたい。ある程度落ち着きを取り戻した後は、メキシコ中央銀行(Banxico)の利下げ継続路線や米国からの労働者送金失速に加え、米大統領選挙に伴う逆風などを受け、対ドルで緩やかな下落を辿ると想定している。ただし、具体的なレートに関しては、足許でかなりかき乱されてしまった関係上、別途改めて変更を行うことを検討している。

なお、今回の MXN 安を受け警戒したいのが、Banxico の動向である。Banxico は、インフレの先行きに関し上振れリスクが大きいとしているが、そのリスクの一つには「通貨安」が挙げられている。MXN 安が一時的なものに留まれば心配は必要ないものの、もし MXN 安が定着すれば、輸入物価上昇を通じインフレ圧力が高まり、Banxico の金融政策は窮屈になる。あくまでここ数日間の動きであり過度に受け止める必要まではないだろうが、十分に警戒したい。

(*)詳細は、2024 年 6 月 4 日発行の通貨ニュース、『メキシコ:MXN 急落の背景と今後の展望～強すぎる与党連合が資産価格の逆風に～』をご覧ください。

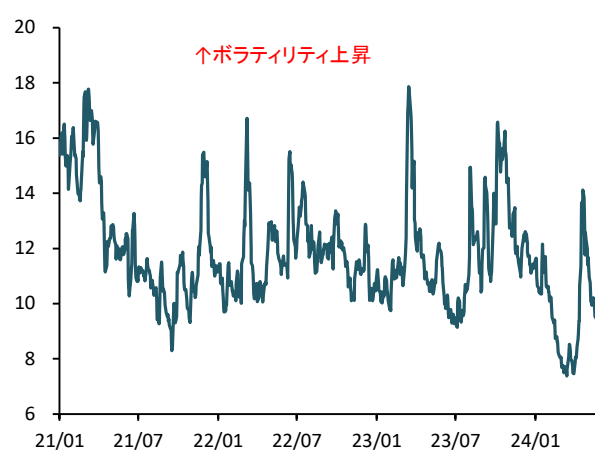
金融市場部
長谷川 久悟
03-3242-7065
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

図表 1:MXN 相場の動向



出所: Bloomberg、みずほ銀行

図表 2:USD/MXN のインプライドボラティリティ(1 か月物)



出所: Bloomberg、みずほ銀行 ※日中高値を表示している

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。